

新型コロナウイルス感染症における寄宿舍の対応について

～令和2年12月から令和3年12月までの記録～

寄宿舍

令和2年度の6月開舎後から2学期終了に至るまで、コロナ対策や舎生への配慮などの取り組みを昨年まとめた。これまでの取り組みに加えて「ウィズコロナ」における新しい対策も取り入れながら寄宿舍生活を行っているが、2021年後半はデルタ株などの変異株の出現により、特性に合わせた対応が求められた。従来の新型コロナウイルス感染症対策に加え、さらに「デルタ株」に向けた寄宿舍の対応および課題を報告する。

キー・ワード：新型コロナウイルス感染症 健康管理 デルタ株 日課 舎生対応 寄宿舍行事

1 はじめに

寄宿舍では40名前後の舎生が生活している。

集団で生活しているため、感染症の流行的的になってしまう恐れがあるので、新型コロナウイルス感染症から舎生を守るために様々な対策を試行錯誤の中、行った。そして今後も、新型コロナウイルス感染症と共存しながら寄宿舍生活を機能していくために、令和2年度12月から1年経過してみてこれまでの取組を報告する。

2 日課による対応の変化

寄宿舍では、令和元年度3月に新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、緊急帰省、閉舎となった。ようやく令和2年度6月に開舎した後も第5波などの社会的な感染状況を鑑みながら、対応を決めていった。

新型コロナ前の日課では、集団生活の中で感染のリスクが大きいことが懸念される。(Fig. 1)

そのため、集団生活の中で密を避けるために人数制限を設けることとし、それに伴って日課の見直しを図った。

中でも「食事」や「入浴」、「点呼」の方法を変えたが、できるだけ通常の日課に近い生活になるように心掛けた。日課において大きく変わった点を下記に挙げる。(Fig. 2)

特に浴室はマスクを外し密になりやすい場所であることから、人数制限を設け、指導員が消毒を行う等の工夫をした。

	平 日	休 日
起床	7:15	---
点呼	7:25 (2階多目的室)	---
風呂掃除	朝の点呼終了後	午 前
朝食	7:30~8:00	8:00~9:00
登校	8:20	---
昼食	学校で弁当	12:00~13:00
外出	下校後~門限	朝食後~門限
入浴	18:00~20:30、 18:00~21:00 (休日の前日)	
夕食	17:45~18:55	
門限・点呼	19:00 (男子女子合同でラウンジ)	
掃除	夜の点呼終了後	
自主活動	高・専 19:00~23:00	
	学習時間 20:30~22:30、 21:00~23:00(休日の前日)	
消灯	23:00 (高・専)	

Fig. 1 令和元年度(2019年度) コロナ前の日課

点呼	(朝)女子寮は各階の多目的室、男子寮はラウンジにて点呼をとる。 (夜)食堂、ラウンジを男女で相互に使う。 当日の宿直舎監の紹介も男女別に行う形にした。
食事	朝食時間を8時までのところを15分延長した。席を1テーブル1人の25席を設置。一方向での喫食とし、空いている席があれば食べてよいことにした。(Fig. 3) 各テーブルに消毒セット(アルコール、ペーパータオル)を設置し、食べ終わった後は各自、テーブルと椅子の消毒を行う。(Fig. 5)
入浴	浴槽の広さに応じて男子は5名、女子は7名と人数を制限。時間ごとの消毒作業は指導員が行っている。

Fig. 2 主な日課の変更点



Fig. 3 食堂 一方向での喫食

3 消毒関連

玄関や多目的室やトイレ、浴室などの公共の場は不特定多数の人間がよく使用することから、よく触れるところの消毒作業を指導員が行っている。自室や食後のテーブルや椅子は、舎生自らも消毒を行っている。(Fig. 4)

また外からウイルスを持ち込まないために、下校後はマスクを破棄し、手指を消毒してから舎内に入るように徹底させている。

場所	方法
公共の場	1日1回、舎生登校後から下校までの間に指導員が消毒を行う。
玄関	舎外から戻ったときに使用したマスクを玄関に備え付けのゴミ箱に破棄。アルコール消毒の設置、他玄関近くにある手洗い場を使えるようにした。
浴室	時間毎に区切り、入浴後の5分間を指導員が消毒を行う。
食堂	各テーブルにアルコール、ペーパータオルを設置。 食後は各自でテーブルと椅子の消毒を行う。
舎室	夜20時半に、布巾を舎生に配布、舎生が自室のドアノブ等を清掃。

Fig. 4 消毒等の場所別の取り組み



Fig. 5 食堂 ペーパータオルとアルコール

4 健康管理と舎生の働きかけ、課題

(1) 手洗いなどの励行

新型コロナウイルス感染症の流行前から、寄宿舎ではインフルエンザの流行に備えて食事前後はしっかりと手洗いをするよう周知している。

一方で、顔を無意識に触る場面も見られる。手洗いでだけでなく、「咳エチケット」について意識を深める取り組みを行った。「飛沫はどれくらい飛ぶのか」「顔や鼻を触らないように」といった具体的な内容を掲示し周知している。(Fig. 6)

<p>11月頃になるとインフルエンザが流行り始めます。</p> <p>手洗いをていねいに</p> <p>うがいをしっかりと</p> <p>食事（栄養のあるものをしっかりと）</p> <p>睡眠を十分とる</p> <p>免疫力を上げることが大事です</p>	<p>今は新型コロナウイルス感染症の流行もあるので、さらに気を付けてもらいたいと思います。</p> <p>指先や手の消毒をしっかりと！</p> <ul style="list-style-type: none"> アルコール消毒については、アルコールなので気化してしまいます。すぐに指先を中心にしっかりとつけましょう。 <p>顔や鼻などを触らないように</p> <ul style="list-style-type: none"> 目や鼻は粘膜があるので、そこからウイルスが入りやすいです。気をつけましょう。 	<p>マスクをきちんとつけましょう</p> <p>飛沫に気をつけましょう！</p> <ul style="list-style-type: none"> インフルエンザもコロナもそうですが、飛沫感染からくることが多いです。 <p>飛沫はどの位飛ぶ？</p> <ul style="list-style-type: none"> 2メートルは飛ぶそうです。その飛沫が相手の顔などにあたって感染してしまう恐れがあります。
<p>くしゃみや咳だけでなく、会話するときも飛沫はします。</p> <p>会話するとき</p> <ul style="list-style-type: none"> 相手と近距離で話すときはできるだけフェイスシールドを使うようにしましょう。 マスクをしないで話すときは距離を置くようにしましょう。（あごマスクはだめです） 	<p>咳エチケット</p> <ul style="list-style-type: none"> くしゃみや咳が出る時は、マスクをしているから大丈夫なのではなく、マスクをしてなおかつシャツの袖などで口元を覆うようにしましょう。 <p>周りへの気遣いを</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事中も食べ物を挟んでおしゃべりはしないようにしましょう。 相手と話をするとき、間に誰かがいる時はやめましょう。 	<p>換気はしっかりと</p> <p>登校するときは</p> <ul style="list-style-type: none"> ドアと部屋の窓（天気がいいときは）を開けてください。 <p>夜の換気は</p> <ul style="list-style-type: none"> 20時半の消毒の時と22時の時に5分程度、空気を入れ替えるようにしましょう。

Fig. 6 咳エチケット掲示

(2) 換気について

換気することを習慣づけるために、換気の時間を登校時や自室の消毒時、就寝前の22時と設定した。また換気の手立てとして通年で扇風機の貸し出しをしている。

(3) 外出範囲について

舎生は日用品等の買い物のため、外出は不可欠である。毎週木曜日の部会にて、社会状況や市川市の感染者などを参考にしながら週末等の外出範囲について検討を行い、1週間ごとに外出範囲を設定して舎生に周知を行っている。

舎生には、東京や人混みが多そうなショッピングモールなどの場所は行かないように促した。また、進路に関わることや必要な用事については事前に申請させて、許可をとる形で対応した。

(4) 舎生の感染対策における気持ちの持続

舎生は自らの行動を変えるだけでなく、他の舎生にも感染対策を呼び掛けるなど協力的である。

一方で、コロナ疲れからか慣れが生じて気が緩んでくる様子も見られる。また「自分は守って気をつ

けているのに」と、相手の些細な行動も気にする舎生も出てくるようになった。精神的なケアについての対策も講じていかなければならないと考えている。

5 舎生会活動

寄宿舎生徒会（略称：舎生会）役員は会長、会計、書記、行事係で構成し、活動は行事や話し合い活動が中心になる。行事等を通して仲間との交流を深め、協調性や相手を思いやる気持ちを育むことを念頭においている。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行を鑑みて舎生会活動のほとんどを中止とした。

Table 1 舎生会年間行事

4月	新入舎生歓迎会 新入舎生歓迎レク
6月	寮祭
12月	クリスマス会
3月	送別会

(1) 2020年度(令和2年度)前半

行事や活動が制限される中で、どのような活動ができるか顧問間でも検討を重ねた

- ①舎生会発行の新聞(ともしび新聞)の増刊
- ②筑波大学附属視覚特別支援学校とのオンライン交流の実施

Fig. 7 コロナ禍で実施した活動

①はともしび新聞を通して、舎生会で話し合ったことなどを発信して舎生同士の繋がりをもちたいと考えた。

②のオンライン交流については、舎生会役員からの視覚特別支援学校の勤務経験を持つ指導員へのインタビューをきっかけに、視覚特別支援学校とのオンライン交流を行ってみることにした。

舎生会役員からも積極的な声があがり、「視覚」「聴覚」と異なる障害に戸惑いながらも、令和3年度に2回目の交流を行った。オンラインの交流の後は、点字で手紙を書くなど、交流を深めようとする様子があった。



Fig. 8 視覚特別支援学校とのオンライン交流

(2) 2020年(令和2年度)後半～

2021年(令和3年度)12月

- ①クリスマス会
- ②送別会・新入舎生歓迎会
- ③新入舎生歓迎レクリエーション
- ④寮祭

Fig. 9 実施した行事

感染対策を十分にした上で、少しずつ行事を再開した。(Fig. 9) 舎生も協力し合いながら皆と交流を楽しんでいる様子がみられた。

①のクリスマス会は、役員と男女子からスタッフを各3名ずつ募集して準備を行っている。準備の段階から舎生自らも密にならないようにそれぞれが距離を取りながら準備している様子がみられた。

夕食はクリスマス会向けの特別メニューを食堂の方に提供いただいた。クリスマス食は、舎生が楽しみにしていることの一つで、食堂の方も色々飾り付けなど工夫いただいている。

②送別会や新入舎生歓迎会、③新入舎生歓迎レクリエーションについてもソーシャルディスタンスを取りながら行った。



Fig. 10 新入舎生歓迎レクリエーション

④寮祭

寮祭は寄宿舎での一番大きな行事である。例年、保護者や学校職員を招待し、150名近くの参加者がいる。会場設営やパンフレット作成など運営の準備も舎生全員で行なっている。男子班、女子班に分かれて、シナリオから考えた創作劇を披露している。例年6月に行なっているが、昨年度は中止となった。

今年度寮祭を行うにあたり、舎生会役員と指導員で内容について検討を行なったところ、舎生からは「寮祭といえば劇!」「伝統を残したい」という意見が上がった。それをうけて、今までに近い形で行うことになったが、感染対策を念頭に以下のような対応を踏むことにした。(Fig. 11)

- ◆ 保護者の参加は見合わせ、舎生と寄宿舎指導員、運営舎監のみの参加とし規模を縮小とした
- ◆ 劇も男子・女子2グループずつに分けて少人数で行うようにした。
- ◆ 寮祭の時間短縮
- ◆ 会場の間取りの工夫
- ◆ フェイスシールドを全員に配布

Fig. 11 寮祭を行うにあたり配慮した点

また、準備の段階から準備の期間を長くし、グループで準備時間が重ならないように配慮した。



Fig. 12 寮祭の会場



Fig. 13 寮祭のパフレット

(3) 舎生会役員の様子と課題

現在、舎生会役員を中心となって動いているのは現高2生である。この高2生の学年は、新型コロナウイルス感染症の流行により入学が6月になるなど予定変更を余儀なくされ、前の日課や行事もどのようなものかを知らない。

何もわからない中で、特に1年で一番大きな行事である寮祭を企画運営することになった高2生は、戸惑いながらも前の記録資料なども見ながらかつて先輩たちが行っていた寮祭に少しでも近づけたいと

奮闘していた。その甲斐もあって、皆の気持ちがひとつになった寮祭に仕上げてくれた。

終わった後は「大変だったけど楽しかった」「皆が楽しそうにしているのを見て嬉しかった」との声が聞かれた。

今後どのようにして次の役員に引き継いでいくか、「新しい生活様式」を踏まえて、本来の寄宿舎生活の姿に戻れるように行事を含めた活動内容や活動方法についても検討していかなければならない。

6 「デルタ株」と感染対策

(1) 施設概要

玄関・職員室・食堂等の共用棟を中心にして左右に3階建の男女子寮棟がある。

舎室については、コミュニケーションやお互いに助け合う気持ちを大切にしてほしいという思いから基本的に2人部屋にしている。

各階にある多目的室（共用場所）にはテレビや冷蔵庫、パソコンを設置している。他にもユニットバスのついた静養室が男女子寮に一部屋ずつある。

現在の建物の構造上、複数の体調不良者を隔離できる部屋もなく、他の舎生の動線を考えても完全に分けることができない。

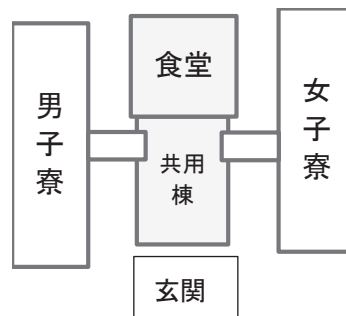


Fig. 14 寄宿舎構造



Fig. 15-1 共用棟 ラウンジ



Fig. 15-2 寄宿舍の各部屋

(2) 「デルタ株」を前提とした対策

新型コロナウイルス感染症の流行も多少落ち着いたかと思われた頃、2021年（令和3年度）8月下旬に変異株「デルタ株」が出現し、感染者が急増した。従来の新型コロナウイルスに比べ、感染力が2倍以上であることや、感染の早さ、飛沫感染・接触感染に加え、細かいウイルスが一定期間飛沫していることで感染が広がりやすく空気感染のようなことが起きていることが分かった。

そこで舎生が夏休み明けに帰舎する日に間に合うように、急遽準備を進めることにした。

文部科学省の指針や感染の特性を受けて、この2点を考えた上で寄宿舍内の動線作りを考えることとした。（Fig. 16）

- ・陽性者と同室の者は濃厚接触者であると考え
こととする
- ・陽性者と濃厚接触者は、他の舎生と分離した空間
で生活させる

Fig. 16 デルタ株を前提とした基準

①寄宿舍内の動線作り

男子寮女子寮ともに、1階の静養室前の廊下を透明シートで遮断することとした。（Fig. 17）

具体的には入り口ドアの幅だけを確保し、2枚のシートに隔てられた新たな空間を廊下に作る形とした。（Fig. 18）



Fig. 17 シートを下ろす前



Fig. 18 シートを下ろした様子

②舎室の配置変え

舎室は2人部屋となっている現状を考え、万が一の陽性者発生に備えて、前もって部屋の移動を行うことにした。感染のリスクを低くするためにも舎生が帰舎してすぐの部屋移動に協力してもらった。

女子寮の場合は、普段は舎室として使用していない研修生宿泊室や和室を使い、1人1部屋の配室に組み替えることで濃厚接触者を最小限にすることができると考えた。

具体的には、従来の2人部屋を1人部屋とし、片方の一人を空いている舎室の一部屋、研修生宿泊室、和室1、和室2に移動してもらった。和室は2室あるため、仕切りにシートを貼り付けた。

(Fig. 19)

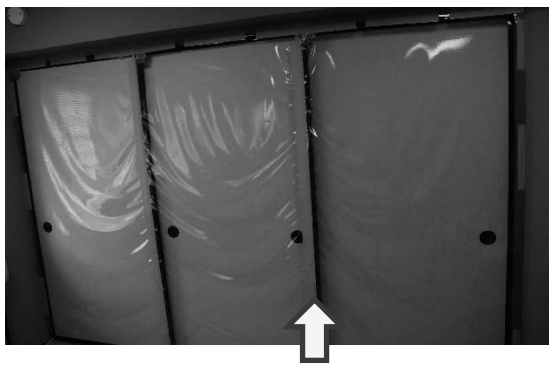


Fig. 19 和室の仕切りシート

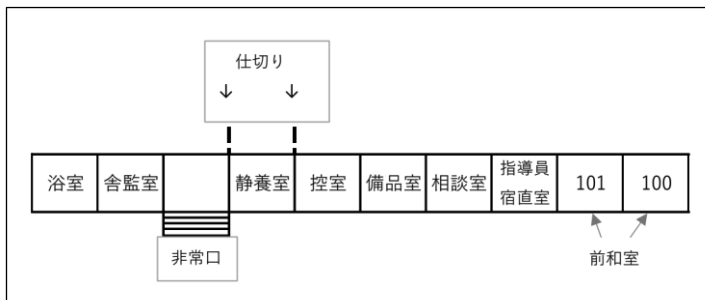


Fig. 20 空間遮断の図 (女子寮)

男子寮は女子寮と違い、全てに1人部屋をつくることできないため、2階以上は現状のままとした。

1階の静養室からトイレまでの空間を、陽性者及び濃厚接触者のみの空間として、他の舎生と空間的な分離を行うようにした。(Fig. 21)

それに伴い、100室および101室の生徒を空いている305室および舎監室、研修宿泊室に移動させることにし、1階にいる陽性者や濃厚接触者と距離を離すようにした。

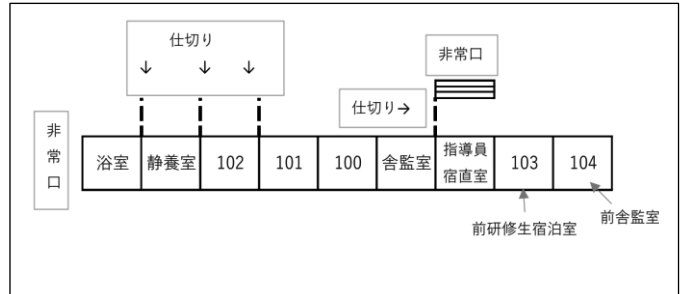


Fig. 21 空間遮断の図 (男子寮)

(3) 指導員の対応

もしも感染者が発生したときのために、常に迅速に動く必要がある。そのために、体調不良者が出た場合を想定して、実際にどのような動きをするのかシミュレーションを行い、指導員間で共通認識を持てるようにした。(Fig. 22、Fig. 23、Table2)

遮断シートの設置
 各部への連絡
 防護服の着脱方法
 陽性者・濃厚接触者への対応について
 他の舎生や指導員の動線の確認

Fig. 22 シミュレーションの内容



Fig. 23 防護服の着脱方法をレクチャー

Table 2 対応マニュアル

	要観察者・同室者	非接触者						
体調不良の場合の対応	<p>頭痛、熱を訴えて来た場合</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>2つ目の症状はないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喉痛、関節痛、怠さ、味覚異常、下痢 <p>37.5℃（平熱より1℃以上高い場合も含む）の発熱がある</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>要観察者として男子寮女子寮ともに静養室に移動 （食事・トイレ等も静養室で）</p> </div> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2">要観察者との同室者の待機場所</th> </tr> <tr> <td>男子寮</td> <td>女子寮</td> </tr> <tr> <td>102室</td> <td>舎監宿直室</td> </tr> </table>	要観察者との同室者の待機場所		男子寮	女子寮	102室	舎監宿直室	2階以上の舎室で生活 基本的に1階は通らない。
要観察者との同室者の待機場所								
男子寮	女子寮							
102室	舎監宿直室							
食事	使い捨て食器を使用 食後は自ら、廃棄用の袋に入れて部屋の前に置く	1階の非常口から一旦外に出て、 玄関から食堂に入る						
トイレ	N95マスクを着用し、1階トイレを使用	2階以上のトイレを使用						
入浴	非接触者の入浴後に、N95マスクを着用して 浴室に移動	非常口から浴室に移動						

朝の点呼で体調が大丈夫かどうか注意をはらっているが、頭痛や喉の痛みなどを訴えてくる舎生もいる。そのような時に判断が難しい場合もある。厚生労働省の指針の健康観察における基準を判断の基準として、2つ目の症状（のど・からだの痛み・だるさ・味覚異常・下痢）を有し、37.5度以上（平熱より1℃以上高い場合も含む）の発熱があれば、「要観察者」として対応する。

もし、該当する体調不良者が出た場合の対応として、感染の疑いのある舎生（要観察者）と同室者を舎内から出さないようにする。感染の疑いのある舎生はまず静養室に移動させ、同室者は男子寮の場合は102室、女子寮は舎監宿直室にて待機とする。

食事の提供は使い捨て食器を使用する。食事運搬の時には、シート空間に置く。回収の際には感

染者自らに廃棄用の袋に入れてもらうことにした。

（4）生活の中での「デルタ株」による感染対策

①換気について

従来の防止策を徹底し、空気からの感染を減らすためにさらに換気に力を入れることにした。また、厚生労働省の室温18℃以上、湿度40%以上が望ましいという指針により、換気と加湿について検討した。

したがって、エアコンは新型コロナウイルス感染症が収束するまで終夜運転することとした。

このことを前提にして、舎生に以下のことを周知した。（Fig. 24）

就寝時間まで
 常時換気をこれまで通り続ける
 室温18度以上になるようにエアコンを調整する
 就寝時間以降
 窓は閉じる
 室温18度以上を推奨
 エアコンは終夜運転してもよいが、義務づけはしない

Fig. 24 エアコンの使用方法

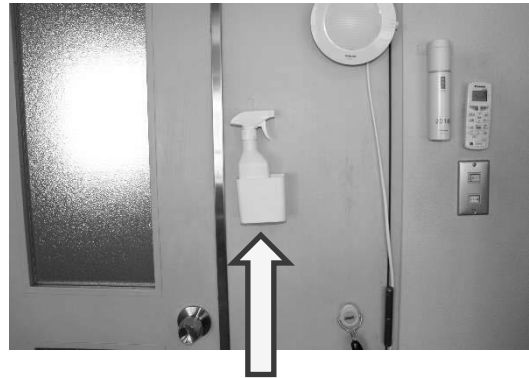


Fig. 25 舎室の消毒用スプレーボトル

また換気状態を確認するために、CO₂濃度測定器を1台購入した。もう1台は保健室から借用した。

②消毒について

公共の場所については、今まで通り継続して、1日1回舎生が登校してから下校までの間に指導員が消毒をしているが、浴室と舎室については方法を変えた。

a. 浴室の消毒

2021年9月から入浴メンバーを固定し、時間も20分と決めたときに、入浴時間をスムーズに回せるようにした。

それに伴い、脱衣室にアルコール、布巾、アルコール除菌ペーパーシートを設置し、自分で使用した脱衣カゴや床をアルコール等で各自消毒してから出るようにした。

b. 自室の消毒（2021年（令和3年）9月～）

今まで、ダスターに次亜塩素酸ナトリウムをしみ込ませたもので拭き、水拭きをする方法を取っていたが、各部屋にアルコールを入れたスプレーボトルを設置することにした。（Fig. 25）

布巾を20時半の消毒の時間に1人ずつ配布し、各自スプレーボトルを使って自室の消毒を行うようにした。また、各部屋ドアのところこまめに手の消毒ができるように消毒のスプレーボトルを設置した。

③入浴について

デルタ株の急増や緊急事態宣言を受けて、文部科学省の「学校で児童生徒等や新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応ガイドライン」（2021.8.27）に基づき、入浴方法についても再度検討した。

同室者と入浴すると固定することで感染の疑いが出た場合でも最小限に留められるように、また、濃厚接触者を特定しやすくするため、時間とグループを固定したものを作成し、掲示した。

a. 2021年9月3日から
入浴時間は1日20分間。同じ部屋の人とだけ入浴をして入浴中も十分なディスタンスをとるように心がける。
b. 2021年10月1日から
緊急事態宣言が解除になり、舎生の負担が少しでも軽減できるように、1回の入浴人数を4名～6名でメンバーを固定した。 入浴時間を1グループあたり30分とした。
c. 2021年12月から
文部科学省の学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルVer7に対応して、メンバーの固定や時間の制限を少しずつ緩和して行くことにした。 入浴時間は16時半～20時半までとし、入浴グループは作らずに浴槽の広さに応じて、男子5名、女子は7名までと人数制限をした。

Fig. 26 入浴対応の変遷

なお2021年12月現在は、もし感染の疑いが出た場合に備えて入浴名簿を作成し、お風呂に入室する時刻と退室する時刻を各自毎回記録させることとした。

④食事について

入浴同様に、食事の方法についても一部変更した。

- ・ 予め定められた席に座るよう固定
- ・ 男子舎生、女子舎生の時間帯を分けて食事を摂る

Fig. 27 2021年9月からの食事の対応

Table 3 食堂使用一覧表

日・月・水・金		
朝食	7:30~7:55 (平日)	男子
	8:00~8:30 (休日)	
	7:55~8:15 (平日)	女子
	8:30~9:00 (休日)	
昼食 (休日)	12:00~12:30	男子
	12:30~13:00	女子
夕食	17:45~18:20	男子
	18:20~18:50	女子
火・木・土		
朝食	7:30~7:55 (平日)	女子
	8:00~8:30 (休日)	
	7:55~8:15 (平日)	男子
	8:30~9:00 (休日)	
昼食 (休日)	12:00~12:30	女子
	12:30~13:00	男子
夕食	17:45~18:20	女子
	18:20~18:50	男子

2021年12月からは、1学期同様とし、男女の時間枠は設けず、座席も自由にした。

ただし、文部科学省の「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアルVer7」に対応して十分な間隔をとり対面喫食を避けることは継続して行っている。

(5) 舎生への啓蒙活動

新型コロナウイルス感染症や「デルタ株」などといった様々な情報が飛び交う中、指導員もきちんと理解して舎生に説明していかないといけない。同時に、集団で生活しているため、一人ひとりの心掛けが必要となってくるため、舎生、職員共に意識を持つことが大切になる。

- ・デルタ株の感染力が大きいこと
- ・空気感染がありうること
- ・感染したら、大変苦しいこと

Fig. 28 食堂使用一覧表

この3点を強く説明し、しっかりと理解させるためスライドおよび掲示物を保健係の職員を中心に作成をした。特に聴覚障害を有する舎生には視覚からもなじみやすいように掲示なども手書きで作成するなどして工夫を凝らした。

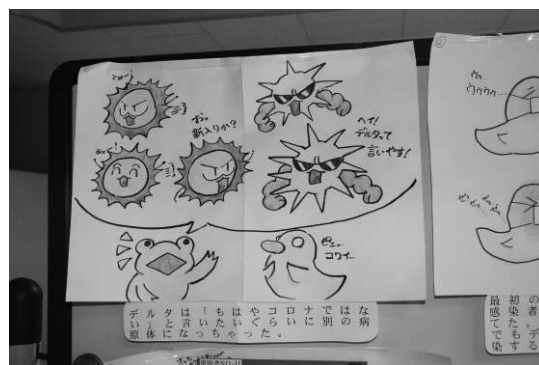


Fig. 29 デルタ株とは？掲示



Fig. 30 点呼で職員からデルタ株について説明

7 感染の疑いが出た舎生への対応

PCR検査の結果は陰性だったが、PCR検査を受けた舎生への対応、および濃厚接触者(同室者)への対応について、また実際に遮断シートの使用から検査結果が出るまでの様子を報告する。

Table 4 PCR 検査を受けたときの対応

	PCR検査を受けた舎生	他の舎生	指導員（当番）	指導員
当日	朝、体調不良を訴える 静養室に移動 同室者を1階の102に待機させる		発熱外来に問い合わせる 病院から以下のことを確認された ・いつから症状が出たか ・2~3日の動向、家族に体調不良者がいなかったか	
			当番指導員が本人と通院する 集団生活のため医師の判断でPCR検査を受けることになった	PCR検査を受けることを当番指導員から連絡を受ける
	喉が赤く、抗生物質の服用は不要の風邪と診断		保護者への連絡	男子寮1階のシートを下し、空間遮断の作業を行う
	PCR検査の結果が出るまで静養室で待機			男子舎生の玄関を男子寮非常口に変更するため、下駄箱、傘立ての移動、アルコール消毒液やマスク用ゴミ箱を設置する
		下校後、男子寮非常口から入る		他の舎生に玄関口が変わること、遮断シートの中には入らないように伝える
翌日	咳が残っているため、引き続き静養室で生活		防護服をつけてPCR検査を受けた舎生、同室者への夕食配膳	夜の点呼で、舎生全員に検査を受けた舎生がいることを周知する
		夕方、濃厚接触者（同室者）は自室に戻る		夕方に陰性の連絡を受ける 遮断シートや玄関など原状復帰をする

(1) PCR検査を受けた男子舎生の様子

木曜日の朝、熱37.2℃、頭痛、喉の痛み、だるさ、鼻水と体調不良の訴えがあった。他に、前日（開舎日）の帰舎時は37.8℃の発熱があったと本人より話があった。

学校とも相談をした結果、以前から学校近くのクリニックから伺っていた発熱外来の病院に問い合わせることにした。発熱外来の病院からは以下の症状がいつから出ているのかを本人に確認してほしいと言われた。(Fig. 31)

- | | |
|---------|-----|
| ・頭痛 | ・下痢 |
| ・喉の痛み | ・食欲 |
| ・鼻水 | ・痰 |
| ・身体のだるさ | |

Fig. 31 クリニックから聞かれた内容

通院する際にあたり、病院からは通院前に歯磨きやマウスウォッシュはしないように、PCR検査では鼻か唾液で検査を行うが医師の判断になる、医師とは携帯電話でのやりとりになるため、電話のできる指導員と一緒に来てほしいと言われた。

喉が赤い、抗生物質の服用が不要な風邪と診断されたが、集団生活のため医師の判断によりPCR検査を受けることになった。

本人からの連絡は寄宿舍の携帯電話にメールをしてもらい、こちらから様子を見る場合は部屋に入らず、屋外から窓越しに様子を見ることにした。

その後、大きく体調を崩す様子は見られなかった。夕方17時に病院から陰性の連絡が寄宿舍にあり、本人や保護者に連絡した。

陰性の結果ではあったが、咳が残っていたため、引き続き静養室で3日程度生活をした。

(2) 濃厚接触者（同室者）への対応

体調不良を訴えた男子舎生と同室者の舎生は濃厚接触者として、登校前に今回は濃厚接触者待機場所として1階の102室に移動させた。健康状態に異常は見られなかった。同室者の健康状態を確認すると、異常はなかった。1日登校を見合わせるようになった。保護者に連絡をし、その旨説明した。

保護者は勉強が遅れることを懸念していたため、ネットワーク環境を整えることを伝え、職員室に設置している無線LANのルーターを男子寮に渡り廊下に移動させ、本人のiPadに接続できるようにした。

夕食時、指導員から以下のことを伝えた。

- ・こまめに検温するように
- ・入浴時間は最後の時間帯に入浴するように
- ・食後はゴミ袋に全部捨てるように
- ・何かあったら寄宿舎の携帯電話にメールするように

Fig. 32 濃厚接触者（同室者）に伝えた内容

PCR検査を受けた舎生と同様、連絡は寄宿舎の携帯電話で取り、また、外から窓越しに本人の様子を見ることとし、指導員も濃厚接触を避けるためにできる限り部屋に入らないようにした。

翌日の体調に変わりはなく、元気に過ごしていた。登校は控えさせ、2時間目からオンラインで授業に参加することができた。その後PCR検査を受けた舎生の陰性の結果を受けて自室に戻った。

(3) 職員の対応

体調不良者が通院をし、PCR検査を受けたと付き添いの指導員から連絡を受け、シートを下ろして空間遮断の準備を進めた。

PCR検査の結果が分かるまでは、男子寮東

非常口を玄関とするため、下駄箱、傘立て、アルコール消毒、マスク用ゴミ箱を準備した。また、外を通過して出入りすることになるため、今後雨天になることを考え、高等部よりテントを借りることにした。男子舎生が帰ってきたら、その都度、出入り口が変わることと遮断シートで区切られた中には入らないように説明した。

検査を受けた当日の夜の点呼では、舎生全員に検査を受けた舎生がいるので協力をお願いした。

翌日夕方、陰性の連絡を受けて、遮断シートやWi-Fiのルーター等を元の場所に戻した。

夜の点呼で舎生に説明し、下駄箱等の片付けも舎生が手伝ってくれる様子があった。

8 保健所から指示があったときの対応について

万が一感染者が出た場合、寄宿舎は集団生活であるため、次々と広がることも懸念される。原則入院となるが、ホテルでの療養となる場合は受け入れてもらえるのか市川保健所の担当者に問い合わせた。

- 【ホテル療養】**
- ・稼働率に余裕がある場合、希望すれば、
 - ①誰でも入ることができるのか
 - ②入るまで何日程度待たなければならないのか

Fig. 33 保健所に問い合わせた内容

保健所からの回答

①千葉県宿泊療養施設は、県内で共用となる。市川市の場合には、「成田市」のホテルに収容されることが多くなっている。

②7月の時点では1日ないし2日程度で入れる。寄宿舎でWCやお風呂を共用で使っているのであれば、ホテル療養を最優先で利用できる。

③保健所の方と最初にコミュニケーションをとるのはPCR検査をした医師で、感染した舎生は保健所からの連絡に従って行動するというを確認した。

そのことを受けて、PCR検査を舎生が受けに行く場合には、寄宿舎の住環境を列挙したメッセージカードを持たせて、その内容は医師を通じて保健所に伝達してもらうようにした。(Fig. 34)

お医者様へ
 私は寄宿舎で生活しています。
 寄宿舎では風呂トイレを共用しています。
 私は入院もしくは宿泊療養を希望します。
 連絡先として 寄宿舎携帯番号〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇 も
 加えてくださるようお願いいたします。
 私のスマホ番号は_____です。

Fig. 34 通院時、医師に見せるカード

9 終わりに

新型コロナウイルス感染症対策を講じた生活になって2年目に入った。幸い、今のところ緊急事態に至ることもなく生活を送ることができている。

しかし「デルタ株」や「オミクロン株」など様々な変異株も出現していくなかで、どのように感染から舎生を守ることができるのか、不安は絶えず大きい。

また今回、保健所や医療機関と話す機会を得たが、もし陽性となり、入院、ホテル療養になるかもしれないと仮定をしたとして、聴覚障害を持つ場合、どのようにして外部と連絡を取ったらいいのか懸念はある。

寄宿舎生活においても、感染対策にウエイトを置き舎生にも我慢をしてもらっている面がある。そういう中でも、PCR検査を受けた舎生がいたときもそうであったが、舎生みんなが仲間を心配し、気遣い、協力的である姿に私たちは助けられている。

まだ終わりが見えない中で、職員もより一層アンテナを張って、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いながら、「ウィズコロナ」における新しい対応策も取り入れて寄宿舎生活を充実させていく必要性を感じている。

【付記】

本研究は筑波大学附属聴覚特別支援学校研究倫理審査委員会の承認を受けて実施されたものである。

【参考資料】

寄宿舎 (2021) 筑波大学附属聴覚特別支援学校紀要, 43, 86-101

厚生労働省 (2021) 新型コロナウイルス感染症の軽症者等に係る宿泊療養・自宅療養における健康観察における留意点について

NHK (2021) 特設サイト新型コロナウイルス
<https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/consultation/> (閲覧日 2022年1月7日)

文部科学省 (2021) 学校で児童生徒等や教職員の新型コロナウイルスの感染が確認された場合の対応ガイドライン第1版

文部科学省 (2020) 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～

文部科学省 (2021) 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル (2021. 4. 28Ver6)

文部科学省 (2021) 学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル (2021. 11. 22Ver7)

筑波大学附属学校教育局 (2020) 新型コロナウイルス感染症対策マニュアル

